やさしく女と男情報誌

Vol.68
2021. 11.1

共に

塩尻市 生涯学習部
社会教育スポーツ課 共生推進係
塩尻市大門七番町３番３号
TEL：(0263) ５２－０２８０　内線３１５１
FAX：(0263) ５４－２７０５
E-mail：shakai@city.shiojiri.lg.jp

令和3年度　男女共同参画週間　キャッチフレーズ

女だから、男だから、ではなく、私だから、の時代へ

男女共同参画週間（毎年6月23日～29日）に合わせて選定されています

特集 「共生」の社会を目指して

～　男女だけでなく様々なマイノリティの人々が格差無く「共生」する社会を　～

今、世界規模で進められているSDGs「持続可能な開発目標」は、私たち一人ひとりが取り組んで行くべき課題です。しかし、日本は医療・保健や教育・平和と統治といった分野は高い評価にもかかわらず、ジェンダー平等は先進国の中でも2020年の調査では最低レベルです。

指標名	ジェンダーギャップ指数	
G7順位	国　名	世界順位
1位	ドイツ	11位
2位	フランス	16位
3位	イギリス	23位
4位	カナダ	24位
5位	U.S.A	30位
6位	イタリア	63位
7位	日　本	120位
参考	韓　国	102位
対象国	156カ国	
公表年次	2021年	
製作機関	世界経済フォーラム	

世界経済フォーラムが政治・経済・教育・健康を調査した男女格差の指数です

SDGsのシンボルマークデザイン
全17の目標のアイコンです

初めてSDGsの考えを本格的に取入れた東京オリンピック・パラリンピックは、女性蔑視発言で日本人の潜在的意識まで話題になりました。

一方で、以前から「性的少数者」であることをカミングアウトした選手もいましたが、トランスジェンダーであることをカミングアウトした選手は今回が初めてでした。オリンピック・パラリンピックが「人権」「多様性」を認める場を果たした新たな一歩も報じられました。

7月に公開型SDGs学習会で「共生」「男女共同参画」「ジェンダー」に関するアンケートを実施しました。コロナ禍での格差拡大、今のジェンダーギャップ指数が妥当であることなど、これからの課題が提示されました。

そこで、【やさしく女と男情報誌『共に』第68号】の特集は、男女共同参画社会の実現に向け進めてきた活動を一歩進め、「男女だけでなく様々なマイノリティー（少数者）の人々が格差無く『共生』する社会を目指して」をテーマとすることといたしました。

男女がともに活躍できる社会へ
内閣府
男女共同
参画局

日本で「女性蔑視」発言が止まらない

政治家ばかりではない。女も男も、高齢者も若者も

今年の2月、森喜朗元首相が「女性蔑視」発言をして東京オリンピック競技大会組織委員会会長の職を辞任しました。オリンピック憲章に記される「ジェンダー平等」の理念に反すると批判されて、国際問題にもなった程です。「共に」第68号「男女共同参画」「ジェンダー」「共生」に関わるアンケート調査を行ったところ、ほとんどの方がこの発言は「差別的だった」と回答しています。誰が考えても「そりゃまずいだろう!」と思う「女性蔑視」発言を多発するのは、政治家など、リーダー的立場の方々に多いように思いますが、時に私たち一般市民も「差別をしているつもりがない」無意識の差別発言をしてはいないでしょうか。

知らず知らずのうちに

人は年齢、立場、その時に置かれた状況によって考え方が決まって来るので、いくら知識として学んだとしても、頭では分かっているが、心から分かり切れていないのではないでしょうか?長年の経験が染み付いてしまった方が無意識の発言になり、ポロッと出てしまうのです。特に年齢、世代により子どものころに受けた学校教育とその人を取り巻く環境がその人の人間形成に大きく影響を与えているのだと思います。これからは「共生の時代」と言っても戦前の教育を受けた一部の方や、戦前の教育に戻したいと思っている方々にとっては心から理解する事は難しいのではないでしょうか?「知識」を「認識」に変える必要があります。

本当の意味での「共生」社会を実現するには世の中には様々な状況に置かれている方々がいて、様々な考え方をする人がいて、様々な「物差し」がある事を認め合い、不断の努力を惜しまずに、事あるごと立ち止まり、学び直しながら共に生きていくべきではないでしょうか。

(編集委員　横山　裕美)

社会的性別であるジェンダー　男女で分かち合える環境を

ここ数年来、ジェンダーと言う言葉がよく聞かれるようになりました。ジェンダーは、長い歴史の中で社会的文化的に形成された、社会的性別を表す言葉であると、徐々に理解が深まってきました。

世界では男女格差を表す指数も多数あります。特に、世界経済フォーラムから毎年発表されるジェンダーギャップ指数(政治・経済・教育・健康)は、表紙のジェンダーギャップ指数の表の通り、156カ国中120位で、毎年の調査でもあまり変化が無くだいたいこの様な位置に定着してしまっています。

順位が低い主な理由は、政治参画において、女性の国会議員の割合と大臣の少なさ、経済機会において、男女の賃金格差の大きさや管理職への女性の登用の少なさです。

「政治」でも「経済」でも方針決定に関わる地位に占める女性割合が、著しく低いのです。

このジェンダーギャップ指数は、各国の全ての男女格差(ジェンダー平等格差)を表してはいないことを理解しなくてはなりません。しかしながら、日本に於ける政治・経済分野は今後是非改善されるべき事項であると考えています。

ジェンダー平等から共生社会に向けて

コロナ禍に於いて、今まで具体的に浮き彫りにならなかった様々な問題、差別や格差が現れ、問題点を問い直し改善することが求められていると感じています。

ジェンダーギャップ指数の改善は、ジェンダー平等実現に結びつくのみでなく、様々な文化への理解を深め、多様性を大切にし、「共生」に向けて歩みを進め、誰もが尊重される社会の形成に繋がります。ジェンダー平等社会は、機会、権利、責任を男女間で分かち合える環境が整った社会が国連の定義です。社会の仕組みも生き方も、この視点で改善が進めば、全ての人が共に生きやすくなると考えます。

(編集委員　小松　洋子)

「共生」の考え方「共生社会」を考える

「多様性と調和」

この夏開催された東京2020五輪は、人々があらゆる面での違いを受入れ、互いに認め合う「多様性と調和」を基本コンセプトの一つにしました。

自分がLGBTQ(性的少数者)であると公表した選手は180人余を数え(リオ五輪は56人)、性同一性障害の重量挙げの選手は、出生時の性とは異なる部門に出場しました。片膝をつくポーズで人種差別に抗議したサッカーチーム、競歩・マラソンの開始イベントで歌と踊りを通して固有の文化を披露したアイヌの人々。多くの人が、自らの存在や意思を世界に伝えました。また、大会関係者の人権意識の低さが露呈し、図らずも人権を考える契機になるというおまけもありました。

「共生社会」

私たちは、誰一人同じではありません。性、世代、人種、身体的特性、国籍、境遇等々、まさに千差万別です。違いを、無視や対立、抑圧や排除ではなく、尊重と受容に向けなくてはなりません。誰もが尊厳が守られ、自分らしく生きられる社会。自分の生同様に他者の生を大切にし、支え合える社会。

それが「共生社会」です。異なる人々が共に暮らす社会は、多様な考えや方法を育む柔軟で豊かな社会です。

「性別による制約のない社会」「性的少数者が生き易い社会」「障がい者と健常者が共に活動できる社会」「高齢者が孤独でない社会」「外国人労働者も同じ地域の仲間である社会」「子どもが伸び伸びと育つ社会」など、いろいろな「共生」のあり方が浮かびます。

周囲に少し心を寄せてみてください。様々な人がいることに気付くはずです。知ることが「共生」への第一歩です。

(編集委員　有賀　則正)

イラスト4点:古屋 敦子

令和3年度　第73回　塩尻市

「豊かな心を育む市民の集い」を開催します。

塩尻市では、市民の人権意識の向上と、男女共同参画社会の実現を目指し意識改革に努めています。

しかし、依然として人権上の偏見や差別は社会生活全体の中に存在しています。本年度は特に、オリンピック関連での人権に関わる様々な問題が影を落とした一方で、オリンピックのモットーに初めて「共に[together]」が盛り込まれました。

そこで、私たち一人ひとりが人権を尊重し、暮らしの中で人を大切にする心を育てて行くために、「豊かな心を育む市民の集い」を開催し、「すべての人が生きやすい社会に向けて」についてパネラーからの提言と共に学び人権意識の向上を図りたいと思います。

○期　日　令和3年12月4日(土)
　午後1時～4時(開場午後0時30分)
○場　所　塩尻総合文化センター（講堂）
○主　催　塩尻市、塩尻市教育委員会
○内　容　※感染症防護対応で開催いたします
(1) 松本人権擁護委員協議会塩尻部会紹介
・「人権の花」表彰（広丘小・宗賀小）
・中学生人権作文表彰
(2) 人権啓発パネルディスカッション講演会
演題　「すべての人が生きやすい社会に向けて」
ファシリテーター　内山二郎さん[WG中心講師]
パネラー　清水ジェニファーさん
　八島思保さん
　中島恵理さん
○託　児　1歳以上から未就学児童までのお子様が対象。無料で託児できます(要予約)
○入　場　無料(予約不要)
※手話通訳が付きます
※ホールでパネル展を行います

ワーキンググループ活動報告

7月10日(土) 公開型SDGs学習会

女と男21ワーキンググループ　山崎　恵子

「SDGs17の目標」あなたはいくつ御存知ですか?

私たち【女と男21ワーキンググループ】では、この17の目標の1つである(5.ジェンダー平等を実現しよう)という項目についての公開での学習会を行いました。

色々と学ばせていただく中で「自分達が消費生活を行っている事が、世界のどこかの国の(人身売買)に繋がっているという事実がある」という事にショックを受けました。

これからは自分でも「SDGs」を学習する時間を作り、考えていきたいと思います。

公開型SDGs学習会の様子

※女と男21ワーキンググループとは、男女共同参画に関して建設的な意見を持っている人を公募したグループ

【興味がある方はぜひご参加ください】

女性相談案内

～お気軽にご相談ください～

【女性以外も可】

月曜日～金曜日　午前9時～午後5時
電話相談　☎0263-54-0783
面接相談　[面談は要予約。電話での予約を]

編集後記

編集委員　吉江　令子

近代オリンピック創設者クーベルタン男爵が女子参加を認めなかった第1回アテネオリンピックから125年を経て、東京オリンピックでは女子選手の参加は約半数を占め、LGBTQを公表する選手はリオオリンピックの3倍に達しました。コロナ禍の自国開催はテレビやネットや新聞で応援し、感動したことにより、性、人種、身体特性など多種多様な選手を自然に受け入れ、一人ひとりの人格と能力を賞賛できたのではないでしょうか。一方でジェンダー平等の意識の低さも露見し、根深い問題にも注目を集めました。

「共に」生きるための男女共同参画社会の実現の取り組みは、性別で固定化された役割や価値観がまだ男女ともに根強く、平等感は実現できていません。長年にわたって刷り込まれた無意識の偏見をすて、女だから、男だから、ではなく、私だからを発揮する社会を目指すためには、一人ひとりが社会に目を向け参加意識をもって声を上げてこそ一歩が始まるのかもしれません。メダルだけでないオリンピックの思いをサスティナブル(持続可能)に進めるためにも、「共に」が考えるきっかけになればと思います。